

<全体分析>

試験時間 90 分

<p>解答形式 記述(70点)・論述(30点)</p> <p>分量・難易(前年比較) 分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化) 大問数4。I～Ⅲは記述(小問数70)。Ⅳは200字の論述2題。</p> <p>出題の特徴 時代別では、「原始・古代」「中世」「近世」「近代・戦後」でほぼ四分割の配点は例年と同じ。戦後は小泉純一郎内閣までが問われた。分野別では、政治から45%程度、社会経済から25%程度、外交から20%程度、文化から10%程度出題された。</p> <p>その他トピックス 大問Ⅳ－(1)は、2018年度基礎シリーズ河合塾テキスト『総合日本史(論述編)』第3章基本問題18で、大問Ⅳ－(2)は、2018年度基礎シリーズ河合塾テキスト『総合日本史(論述編)』第5章基本問題19および『日本史論述演習ゼミ』第6講補充問題①で、それぞれ類似のテーマを扱っている。</p>

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	記述 <史料>	古代・近世・近代 政治・外交	A 道鏡の死(『続日本紀』) B モリソン号事件(『慎機論』) C 初期議会期の政治・外交(「山県有朋書翰」) (5)「神器」が皇位を象徴することに気づけたであろうか。 (10)史料中の「ゴローウニン」からロシアと判断したい。(11)ラクスマンの来航を想起して解答したい。(16)民党が掲げたスローガンである「政費節減・民力休養」を踏まえた内容を記したい。	標準
II	記述 (短文空欄 補充)	原始～戦後 総合	①旧石器時代の打製石器 ②縄文時代の文化と交易 ③弥生時代の中国王朝への遣使 ④古墳時代の金石文 ⑤近世中・後期の私塾 ⑥近世後期の農村と都市 ⑦近代の輸出・輸入品 ⑧近現代の婦人運動 ⑨朝鮮総督府の植民地統治 ⑩太平洋戦争に至る日米関係 基本事項からの出題が多く、取りこぼしは許されない。	やや易
III	記述 (前提文)	古代・中世・戦後 政治・外交・文化	A 平安時代における平城京の寺院 B 鎌倉～室町時代の守護 C 戦後における周辺諸国との国交正常化 (2)「11世紀前半」「阿弥陀堂を中心とする寺院」から法成寺と判断したい。(12)「色丹島」、(13)(あ)「慶応」、(14)「小泉純一郎」、(15)「消費税」などは時事的な関心に基づく出題であろう。(13)(い)は戊辰戦争を想起したい。	やや易
IV	論述	中世・近世 政治・社会経済	(1)執権政治の確立過程における北条時政・義時の役割 執権政治が北条氏を中心とする有力御家人の合議政治であることを踏まえて、北条氏の権力拡大の過程と合議政治の導入について簡潔にまとめたい。 (2)石高制の成立過程と石高制に基づく大名統制・百姓支配 貫高制と石高制の違い、および石高が大名・百姓それぞれの負担の基準となったことを的確に述べたい。	標準

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準に判断しています。

- ① I～Ⅲの記述式 70 点、Ⅳの論述 30 点の配点を念頭に置いた学習計画を立てることが大切である。
- ② 全時代・全分野からまんべんなく出題される。I～Ⅲの記述式で高得点を確保するために、教科書を欄外の脚注なども含めてマスターしたい。
- ③ Ⅳの論述問題は対策の有無によって得点差がつく。早い段階から学習対策を立てて問題演習を行い、できる限り添削指導をうけること。
- ④ 史料問題は基本的に未見史料から出題されるが、市販の史料集などを利用して日頃から基本史料に慣れ親しんでおきたい。
- ⑤ 京都大学特有のひねりをきかせた設問対策として、夏期・冬期・直前講習および京大入試オープン・河合出版『入試攻略問題集 京都大学 地理・歴史』などの積極的な利用を薦めたい。